



2025年1月15日

各 位

暗号資産の上場支援事業に関するお知らせ

～第2弾として「Wowbit (WWB)」の上場支援を決定！～

当社子会社であるGFA Capital 株式会社（以下、「GFA Capital社」といいます。）は、暗号資産関連事業として、ミームコインを中心とした暗号資産の取引所への上場支援事業を開始することを決定しておりますが、第2弾の支援先として「Wowbit (WWB)」を選定することとなりましたので、下記のとおり、お知らせいたします。

1. 暗号資産「Wowbit (WWB)」の上場支援に至った背景

当社は、不動産・金融事業を本業とし、最先端のメタバース空間を含めた様々な事業開発・金融支援を行っております。当社は複数の事業会社を子会社・関連会社として有しており、それら事業を連携させながら、メタバース・フィンテックといった最先端領域の市場創造に尽力をしつつ、本業の不動産・金融事業の収益を最大化すべく事業推進を行っております。

暗号資産、特に基軸通貨として代表的なビットコインは、米国を中心に、ETFが組成されると共に、戦略的準備資産として国家が主体とし買い上げられる兆候が示現しつつあり、未来のデジタルアセットとして注目を集めております。日本国内においても、上場企業がビットコインを戦略的準備資産として備蓄し、その投資収益を見込み企業価値が上昇しているケースも散見されます。

こうした動向も受けて、GFA Capital社では、ビットコインへの投資を中心にしつつも、短期的に成長が見込めるアルトコインも投資対象として積極投資を行っており、「NYANMARU Coin (\$NYAN)」、「SEAMANIA Protocol (SEAMANIA)」、「TraderZ」の総合ポートフォリオとリンクしたミームコインである「ZCoin (\$Z)」等に、投資しております。

将来成長性が高いと期待されているアルトコイン群を調査していたなかで、アジア圏最大規模のICOを成功させ、時価総額約2,500億円を記録（2018年5月時点のレート）した「Wowbit (WWB)」を運営するWowoo Pte.Ltd.（本社：シンガポール、CEO：FUJIMARU. NICHOLS、以下「Wowoo社」といいます。）と接点を持つことがあったため、GFA Capital社と協議を重ねたところ、「Wowbit (WWB)」の基礎思想である“感動の価値化”というコンセプトが、GFA Capital社の支援のもと組成を準備している（※）「Paters Coin（仮称）」とのシナジーが高いと判断できること、Wowoo社が新たなエコシステムを構築するためにWEB3.0と既存事業の融合に伴う事業機会と新たなキャッシュフローの創出手段を模索していること等から、GFA Capital社がエコシステムの再構築に向け支援を行うこと、国内外大手取引所への上場支援を行うことが、両社のステークホルダーの利益に資すると判断し、今般の支援決定に至っております。

（※）2025年1月10日付 PR情報「[「Paters Coin」組成に関するお知らせ](#)」より

2. 「Wowbit (WWB)」上場に向けた想定エコシステム

GFA Capital社は、ブロックチェーン技術全般、暗号資産に対する知見を有しており、また、懇意にしているブロックチェーン開発会社との顕密な連携を図っております。

暗号資産を組成する際には、発行体の調査、発行体の国の決定、トークノミクス全体の設計、エ

コシシステムの実装、更には「Wowoo社」並びに当社グループへの利益にどう貢献するか等の検討等、思慮すべき事項が多岐にわたることから、現時点において確定的なエコシステムを提示・実装することは難しい状況にはあるものの、当社グループは関係パートナーと協力し、大まかに以下のユーティリティを実装することを企図しております。

当該ユーティリティの実装を通じて、「Wowbit (WWB)」の上場を支援することで、関係各社の利益に資する予定であります。



- (1) 「Wowbit (WWB)」の旧ホルダー、既存ホルダー含むエコシステムユーザーに対して、WEB3.0プラットフォームを利活用頂けるようにすべく、ミームコイン、ユーティリティトークン等を発行支援するトークンプラットフォームを整備します
- (2) トークンプラットフォームを活用し、GPUを活用したAIデータセンター事業の将来収益をトークナイズ化するモデルのトークン、「AID (仮称)」を組成し、AIデータセンター事業から生まれる収益を原資にトークノミクスを実現し、Wowooプロジェクトにおける、安定的なキャッシュフローを確保します
- (3) 「AID (仮称) プロジェクト」は、AIやクラウドゲーミング向けの分散型GPUコンピューティングインフラストラクチャを提供するデータセンタープロジェクトを指し、「AID (仮称)」はそのネイティブトークンです。AIDトークンは、ネットワーク内での取引の主要な手段として機能し、以下の目的で使用されます。

・支払い手段: 「AID (仮称)」は、当社が展開するAIデータセンター上でのGPUリソースのレンタルやその他のサービスの支払いに使用されます (AIDプロジェクトでは、GPUリソースの仮想賃借が実現します)。

・ガバナンス: 「AID (仮称)」保有者は、データセンター事業の収益率分配を含む、将来に影響を与える提案や決定に投票する権利を持ち、ネットワークのガバナンスに参加できます。

・ステーキング: ユーザーはAIDトークン (仮称) をステーキングすることで、ネットワークのセキュリティと運用をサポートし、報酬として追加のAIDトークンを獲得できます。

・セキュリティと品質保証: 「AID (仮称)」は、ネットワーク参加者に対するインセンティブとして機能し、提供されるサービスのセキュリティと品質を維持します。

・外貨獲得の安定性: 「AID (仮称)」の本源価値は、(※)当社がスーパーマイクロ社の協力に基づき運用予定であるAIデータセンター事業の将来収益 (債権) であり、AIDはAIデータセンター事業の将来収益をトークナイズする機能を果たすため、他の類似プロジェクトと比較すると安定的なキャッシュフローによって支えられることとなります

- (※) 2025年1月14日付 PR情報「[Super Micro Computer Inc. \(スーパーマイクロ\) と基本合意契約締結に関するお知らせ～日本国内での GPU クラスタによるデータセンタープロジェクト開始に向けて～](#)」より

- (4) WWBは、「AID(仮称)」のプロデュースを通じ本源価値を高め、トークンプラットフォームの利用者数を拡充すると共に、同トークンプラットフォーム上で「Paters Coin (仮称)」の組成を支援します。
- (5) WWBは、「Paters Coin (仮称)」の潜在顧客層となる250万人の富裕層と連動してホルダー数・トークン価値を最大化させると共に、上場直前まで、調達キャップは最小化することで、常時買い圧力が売り圧力を上回る状況を維持します。
- (6) WWBのエコシステム再構築には相応の時間を投下し、時価総額を最大化させることが当社利益に資すると考えられるため、WWBの上場に先行して、「AID (仮称)」や「Paters Coin (仮称)」が先行して上場する予定です。

GFA Capital社は、継続してディーリング事業を通じた投資・情報収集活動に励むと共に、GFA Capital社が上場支援していくコインの探索を続けながら、上場支援サービスの拡充を通じて、当社グループの利益に資する活動に尽力していきます。

なお、本件が現状において当社連結業績に与える影響などはございません。

■ 運営会社概要

会社名：GFA Capital 株式会社

所在地：東京都港区南青山二丁目2番15号ウィン青山 BIZ+

代表者：代表取締役 松田 元

事業概要：企業・ファンド等への投資及び投資先支援、投資運用に関するアドバイザー事業

以上